

## 岡城跡

岡城跡は、竹田市街を見下ろす小高い丘の上にあり、800 年以上の歴史を誇る。険しい山腹に立ち並ぶ手強い石垣群や、かつて城を攻撃から守っていた城壁の跡から、江戸時代（1603～1867 年）の特徴的な城郭建築を垣間見ることができる。山頂からはくじゅう連山や祖母山、活火山である阿蘇山を望むことができる。

源平合戦（1180-1185）の英雄、源義経（1159-1189）をかくまうために、1185 年にこの丘に建造物が建てられたのが始まりとされている。源氏と平氏の争いは日本最初の武家政権である鎌倉幕府の設立につながった。14 世紀に、大友氏の領であった地域を監督していた志賀氏によって常設の城が築かれた。

1593 年、朝鮮半島への侵攻に失敗した罰として、志賀家は事実上の日本の支配者である豊臣秀吉（1537-1598）によって岡城からの退去を命じられた。志賀家に代わって中川家が現在の兵庫県から移り住んだ。中川氏は 277 年間岡城に居城を構えたが、武家支配を終わらせ、新政府が日本の近代化を開始した明治維新の影響を受け、岡城は 1874 年に取り壊された。

岡城には中川家が築いた城郭の多くが残っている。その中には、山頂への道沿いにある堂々たる石垣が代表的である。石垣の一部には「鏡石」と呼ばれる、権力の象徴であった巨大な平らな石が埋め込まれている。跡となった今でも、この遺跡は影響力を持ち続けている。幼少期を竹田で過ごした有名な作曲家、瀧廉太郎（1879-1903）は、岡城にインスパイアされて代表曲「荒城の月」を作曲したとされている。現在、この場所には瀧の銅像も立っている。